



平安時代延石

## あとがき

遺跡を調査する前、初めて現地に立ち周辺を望むと、古代信仰の対象となった金峰山、野間岳が仰げる。神話に出てくる「古代吾田の里」がこの近辺に存在したのだなあと思いつつ、調査を進めていくことになった。「多」の線刻土器が出土したときは、ひょっとしたら?……続々出土してくる平安時代の宴跡。文学資料も「阿多」「安」「川」等、地名に関係あるものが出土してくれる。地図で位置の確認を行うと、遺跡のある地点に阿多と記載されている。1,000年も昔から阿多の名称が継続されてきていたのだ。

連日、真っ赤に燃えた太陽や地中から鋭く突出した霜柱等、自然との闘いであった。続々出土する遺物。整然と並ぶ柱穴群、構溝。当時の役所跡では……。日増しに不安と期待が入り交じってくる。広いと思った道路幅を狭く感じたり、遺構の半分しか調査出来ず、歯札りをした事。何とか調査を終了すると、目の前に山と積まれた膨大な資料。調査以上に厳しい日々であった。それでも、ここに報告書を発刊することが出来た。万全を期したつもりであるが、必ずしも十分といえないものになった。今後、検討を要するものも多いと思う。機会をみて不備を修正し、その責務を全うしたいと思う。

調査にあたり便宜を図って下さった金峰町教育委員会、阿多歴史研究会の皆様、そして作業員としてご協力いただいた地元の方々、整理作業に従事していただいた文化課埋蔵文化財収蔵庫の方々に心より感謝申し上げます。

鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(57)  
一般地方道鹿児島加世田線に伴う埋蔵文化財報告書

### 小中原遺跡

発行日 1991年3月30日  
発行 鹿児島県教育委員会  
〒892- 鹿児島市山下町14-50  
印刷所 中央印刷(株)  
〒892 鹿児島市春日町12-16